

①P1橋脚 施工状況



②P2橋脚 施工状況

※今後の設計・協議等の進捗により変更になる場合があります。

- ・P1橋脚では、現在ケーソン基礎の沈下掘削(一次)を5月中旬までを目途に実施しています。その後は、中詰め材の投入準備作業を予定しています。
- ・P2橋脚では、現在ケーソン基礎工事に向けた土留め設置を4月下旬までを目途に実施しています。その後は、土留内の掘削作業を予定しています。

2025. 4. 23-26

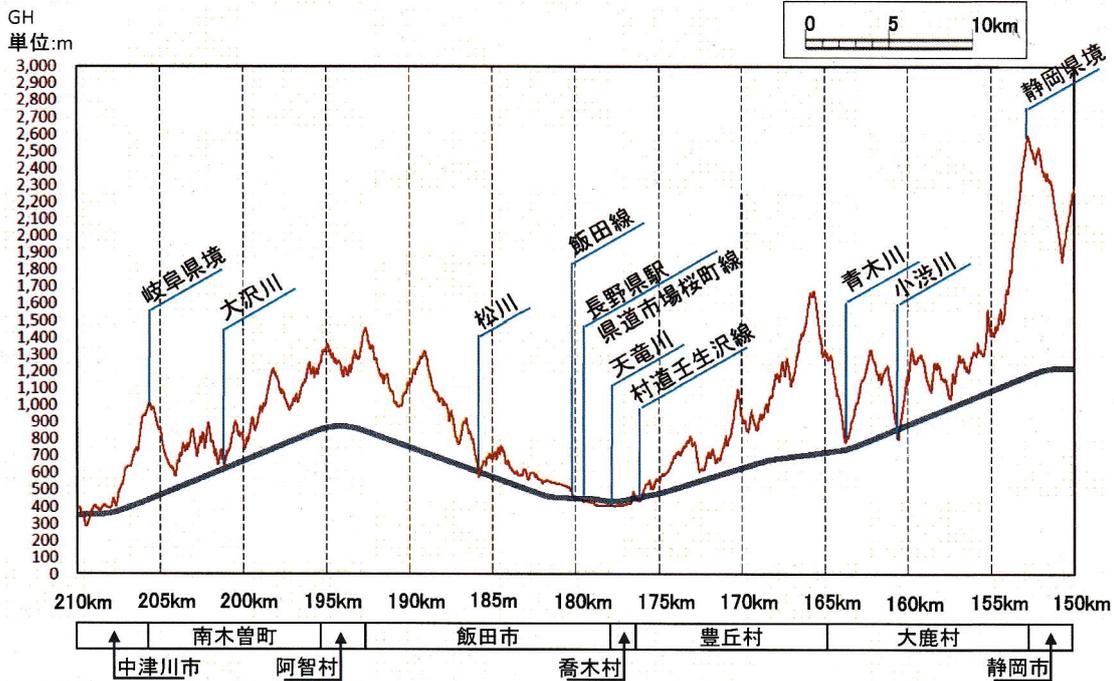
住民説明会

○本日の説明について

- ・長野県駅(仮称)工区については、昨年7月に高架橋・橋りょう等の工事説明会を開催し、同年9月に環境保全の計画を長野県等へ送付しました。その計画について、本年1月27日に長野県より助言を受領しました。
- ・要対策土活用上、「橋脚基礎部は、構造的に十二分な対策がとられていること」を長野県にもご確認いただきました。その上で助言には、要対策土の飛散・流出対策の徹底や、ヒ素が溶出していないことを確実に把握するための水質調査の実施について記載されています。
- ・当社はこれを受け、地域の皆様にご安心頂けるよう、活用計画を精査し、より具体化した内容としてきました。本日は、その内容についてご説明させていただきます。

○発生量の予測

・中央新幹線事業における山岳トンネル区間は、土被り(トンネル天端から地表面までの距離)の大きさが数百～千m級という地表から非常に深い位置を掘削するという点から、事前の厳密な要対策土の発生量予測が困難であり、要対策土の活用については工事の進捗に合わせて活用方を検討せざるを得ないと考えています。



○要対策土活用先の検討

・かねてより、当社事業用地内(中央新幹線事業)での活用を検討してきました。加えて、長野県をはじめ各自治体へもご相談の上、公共事業等での活用についても検討を重ねてきましたが、現時点で活用先を見いだせていない状況です。

地区	仮置き箇所	要対策土の土量(締固め)	活用計画
大鹿村	大鹿村内仮置き場	約 0.5万m ³	小渋川変電所造成工事(当社事業)にて約1万m ³ 活用予定
	南アルプストンネル(長野工区)坑内	約 1.2万m ³	
豊丘村	豊丘村内仮置き場	約 0.3万m ³	将来的に発生するものを含め村内(当社用地)で活用予定

・引き続き、長野県をはじめ各自治体へもご相談の上、南信州地域全体で活用先を検討中です。

・そのような状況の中で、土曾川橋りょうケーソン基礎内の中詰め材(約0.5万m³)については、当初、現地掘削発生土を中詰め材として活用する計画でしたが、要対策土に置き換えることができるかを検討してきました。

○活用する要対策土の種類・濃度

要対策土の判定に関しては、「土壤汚染対策法」にて定められた基準値を用いています。

種別	土壤溶出量基準値 (mg/L)	第二溶出量基準(※) (mg/L)
カドミウム	≦0.003	≦0.09
六価クロム	≦0.05	≦1.5
水銀	≦0.0005	≦0.005
セレン	≦0.01	≦0.3
鉛	≦0.01	≦0.3
ヒ素	≦0.01	≦0.3
ふっ素	≦0.8	≦24
ほう素	≦1	≦30

- 基準値は汚染土壌から特定有害物質が地下水に溶出し、その地下水を飲用することによる健康リスクに関し、一生涯を通じた毒性を考慮して設定された値です。具体的には、「体重50kgの人が70年間、その地下水を1日2L飲用し続けても健康に対する有害な影響がない濃度」として設定されています。
- 今回活用する要対策土は、ヒ素の濃度が基準値の3倍程度です。

(※)地下水等摂取によるリスクに係る措置の選択・決定材料になる基準で、超過すると、より厳しい対策が必要となります。

○構造の安全性

	原位置封じ込め措置(土対法ガイドライン)	土曾川橋りょうのケーソン基礎
	<p>遮水壁(鋼矢板等) 覆い 観測井(水位) 観測井(水質)</p> <p>地表面 地下水面 帯水層</p> <p>目標土壤溶出量を 超える土壌 (第二溶出量基準適合)</p>	<p>5.3m 3.2m 5.3m 4.0m 1.5m 1.5m</p> <p>要対策土(中詰材)</p> <p>漏出防止措置</p>
上面	厚さ10cm以上のコンクリート 又は厚さ3cm以上のアスファルト	厚さ300cm以上のコンクリート
側面	厚さ50cm以上 かつ透水係数が 1×10^{-8} m/秒以下の 地中連続壁	厚さ150cm以上 かつ透水係数は 1×10^{-8} m/秒以下の コンクリート
下面	厚さ500cm以上 かつ透水係数が 1×10^{-7} m/秒以下の 地層(※)	厚さ400cm かつ透水係数は 1×10^{-8} m/秒以下の コンクリート

(※) 厚さ500cm・透水係数 1×10^{-7} m/秒は、厚さ50cm・透水係数 1×10^{-8} m/秒と同等の構造です。したがって、今回の構造の下面は、その8倍の厚さを有していると言えます。

土壤汚染対策法に基づく原位置封じ込め措置と本ケーソン基礎の構造等を比較し、有識者からも意見を伺うことで、**環境安全性が十分確保できる**との結論に至りました。